

でるた


 おおしま きぬえ
大島 衣恵

「能をやっていて良かった、と思うのはどんな時ですか」
能の体験講座などで訪れた
小中学校で、しばしば尋ねられ
る。

能特有の張り

詰めた緊張の中
で舞台を務め、

自分なりに充実

感を持てた時。諸先輩の素晴ら
しい舞台を目の当たりにして、
深い感動を受けた時。折々に心
が震えるような思いを味わえる
のは、能に携わる者として幸せ
なことだと思ふ。

昨秋、ハワイ大学で能の実技

指導にあたる機会に恵まれた。

学生たちは皆、明るく楽しい。

そして真剣に学ぶ姿勢が素晴ら

しく、つられてこちらにも熱が入

る。

「能の表現が最も素晴らしいのは、現代だけの個人的な考えが入っていないところ」。演劇俳優の経歴を持つアメリカ人大学院生の指摘である。「長い時間をかけて、多くの先人に磨かれた信念がある。それを伝えようとしているから能は深く揺るぎがない」と。

能は無駄な動きを省いてシンブルな表現を究め、かえって心の内なる世界を豊かにしている。能に限らず、日本の伝統文

良かったこと

化が持つ、揺る
ぎない強みとい
えるだろう。日

ころは無頓着に
なってしまうている伝統の偉大
さを、あらためて教えられた言
葉だった。

文化を尊重し合うことが真の
国際交流の第一歩。芸術が言語
や国境、時代までも超えて人を
結び付けてくれると実感する
とき、「能をやっているうちに良
かった」と心から思う。

(喜多流能楽師 福山市)